

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1946
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.39, No.3 (1946. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19460901--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

基礎であるといふ彼の信念は固い。

第五篇は民主主義的社會主義の實現の爲の政策を論じた部分であり、結論においてイギリス労働黨の政策に賛意を表してゐる。重要産業を有償的に國有化すること、最高國民經濟會議を設けること、社會改良的施設は社會主義化の後に本格的なものにすること、平等化課税を實施すること等が重要な政策の方向を示してゐる。而してこの程度の社會主義化が民主主義的に實行されると信ぜられるのである。

ダービンは卷末にナチス其他の獨裁國の暴虐の事實記録をのせて、獨裁の非文明的狀態を讀者に刻みこまうとしてゐるやうである。獨裁を憎むのは感情の問題であつてかまはないが、之を學問的に批判するのは、この本では不十分である。民主主義の主張については、妥當・公正な論陣を張つてゐる。資本主義の變遷についても亦我々は學ぶものがある。併し著者の心理學的分析は社會科學の問題の性質から見て、適當ではないやうである。著者がこの方面にまで研究の領域を擴げた努力は尊重さるべきものであらうが、その成果は必ずしも讀者の高く評價する所ではないであらう。併しながら本文の冒頭に述べた通り、多方面に亘つて

総合的な研究成果を纏めた此書物は、専門的に偏して考へたがる我々の缺陷を矯正するものとして、又混亂の渦中にある日本國民經濟の再生の爲の政治方策を採る基礎的な一指针として、好き参考書となすことができるであらう。

前號(第三十九卷) 目次

現代の苦悶——再刊に際して	野村兼太郎
利子動態説への回顧	氣賀健三
資本主義經濟か社會主義經濟か	千種義人
國民所得の統計的解析	鈴木諒一
地方主義による地方産業の編成問題	奥井復太郎

慶應義塾經濟學會

論 說

世界經濟はどうなるか……………永田 清(一)
計畫經濟への道……………氣賀健三(三)

資 料

問屋と仲買——江戸材木商……………野村兼太郎(四)
(社會經濟史資料紹介)

書 評

ヴルガ「戦後世界工業發展の動向」……………山 本 登(五)



三田學會雜誌

第三十九卷 第三號